

2013年5月19日

審判部会

第66回都民大会競技上の注意

1. この競技会は、全日本アーチェリー連盟競技規則並びに東京都アーチェリー協会「競技会安全管理規程」に準拠して行う。
2. 競技は男女とも予選ラウンド及び予選を通過したチームによる決勝ラウンドを行う。
3. 予選ラウンドについて
 - (1) 競技は2分3射の3立ちとし、「A-B-C矢取り・C-A-B矢取り・B-C-A矢取り」を12エンド繰り返す。
 - (2) 予選の通過は3名の合計点数により男女各16チームとし、16位のチームが同点の場合はシュートオフにより決勝ラウンド進出を決める。
 - (3) 用具故障の修理に与える時間は5分間とする。
発生した場合審判員にアピールし、故障と認定した時点から選手は復旧を行う。
4. 決勝ラウンドについて
 - (1) 各対戦はトーナメント表の通りとし、勝ち残ったチームは次の対戦を確認の上、競技準備を行う。負けたチームはスコアカードを提出する。
 - (2) 競技は6射2分、4エンドとし、3名の選手がどのような順序で2射または1射しても良く、矢取りは6射毎に行う。決勝戦は交互射で行う。
 - (3) 選手は1mライン後方で待機、2声で準備し1声で1mラインを越え行射するが、シューティングラインに立つまでは矢をクイバーから出してはならない。
また、行射を終えた選手が1mライン後方に完全に戻ってから、次の選手は1mラインを越えなければならない。(ライン上での交差はやり直しとする)
これらのことが護られない場合は審判員がイエローカードで警告し、この警告に従わない場合はレッドカードを示し、最高点を削除する。
 - (4) 車椅子の選手は常にシューティングライン上に位置してかまわず、行射が終了したら手を頭上に挙げて知らせる。
 - (5) 用具故障の修理に時間は与えられない、時間内で処理すること。
 - (6) 同点の場合はシュートオフ(3射1分、1回)を当該的で行い勝者を決める。
 - (7) 採点は、チーム相互採点とする。
採点は奇数番号の的から選手、審判員全員が参加して行い、奇数的終了後に偶数的に移動し順次採点を行う。

得点は当該チームの代表選手が読み上げ、対戦チームの代表選手がスコアシートに記入する。

5. 練習は予選ラウンド開始前に2分3射3立ちで1回行う。
行射出来る矢の本数は3本なので注意すること。
6. 競技開始前の用具検査は競技時間の関係上実施しせず、必要において審判員が随時実施する。
7. 安全管理に関して東京都アーチェリー協会「競技会安全管理規程」で行う。
事故再発防止のために定めた東京都のルールです。
趣旨を理解して必ず護って下さい。
 - ・ 矢がバットレス（畳）を逸れた場合は審判員に必ず報告する
逸れた矢はチームで協力して回収し、審判員に報告する
 - ・ 危険ゾーン（体育館2階テラスを超えた場合）に射った選手は行射を中断（退去）させる。
また、バットレスを外す本数の著し選手の場合も同等の処置を行う。
 - ・ 引き分けの時は矢の角度が地面と水平、あるいは矢先が的についた状態で行わなければならない
この角度を外れた場合は審判員が口頭で注意し、繰り返す場合はイエローカード等再度指導、再度繰り返す場合は競技委員長より退去が命じられる
 - ・ 引き戻すときは的に付けて戻す、矢を的より上または下に向けて引き戻さない
このことが出来ない場合は、引き分けと同様に対処する

以上